

近畿大学外国語教育の目的と共通基本目標

—外国語教育マニフェスト—

前 文

近畿大学の教養教育の目的は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することにある。この教養教育の目的に基づいて掲げられた計6項目の目標のうち、特に外国語教育と密接に関係するものとして、2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う、5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う、の2項目がある。この2項目に立脚して、近畿大学の外国語教育の目的を次のように掲げる。

目 的

近畿大学の外国語教育は、国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養うことを目的とする。

共通目標

上記の目的を達成するために英語と第二外国語それぞれの全学共通の基本目標をおく。

外国語科目

英語

医療薬学科(平成 27 年度以降入学生)

創薬科学科(平成 27 年度以降入学生)

英語履修案内

英語教育の共通基本目標

近畿大学薬学部（教養基礎教育部門）

語学教育の基礎理念

1. 薬学部の語学教育の基本的理念は、医療従事者や医薬系研究者に必要とされる外国語の能力に加え、**論理的思考や批判的思考を身に着けた国際的な教養力**をもつ人材の養成・輩出を目指します。
2. 近畿大学の建学の精神である、**実学教育**に加え、**人格の陶冶**を目指す**教養教育**を実現することを目指します。
3. **実学が薬学、医・薬学の専門教育**であるとすれば、その**教養基礎教育は「人格の陶冶」の部分を、医療人として求められる人間理解の探求と、それに基づいた、外国語のみならず母語にも求められるコミュニケーション能力や問題解決能力の養成**を目指します。

語学の方法と理念

学習負荷の高い医療系基礎専門並びに専門科目を学習する薬学部の初年次、2年次学生には、**医療系の専門の導入となる教材**を使い、医療人としての自覚を高めながら**専門教育の導入教育**を担い、無駄のない語学教育プログラムを実行します。

- 1-1. 自宅学習、事前準備学習を確実に実行するために、**e-learning**など**ITコンテンツ**を活用した**語学教育**を実践します。これは「**反転授業**」的方法でもあります。
- 1-2. 海外での発表・研修・在外研修の機会が特に多い医療系学部の学生(院生)に必要な**TOEFL教育**を、**語学(英語)教育の一つの軸**とします。
TOEFL (ITP, iBT test) についての知識を持ち、TOEFLスコアを取得し、またTOEFLを通じて、従来の**General English**教育ではなく、**Academic English**教育を行います。アカデミック教育が同時に国際教養教育になるように教育指導します。学生諸君は語学(英語)教育を受けながら、英語運用能力を磨き、教養力をつけると同時に大学在学中のスコア(資格)取得も目指します。
- 1-3. 医療系あるいは理系人材として必要とされる語学能力を考慮し、**4技能のうち Reading と Writing の能力の育成を最優先**とします。
Reading (読書量、読書力)は世界の大学教育の基本であり日本人大学生に欠ける部分であることから、「**正確に読む**」「**大量に読む**」を目標に、Reading能力育成が、英語で発信される最先端情報を早く正確に把握するための語学教育を目指します。あわせて**英語の多読教育**を推進し、また**図書館文献を活用した日本語文献の大量読書**も推奨します。
さらに世界に研究成果を発信し、異文化・異言語の人々と意見交換するための英語力の育成のために**Writing**が「**明瞭で正確**」にでき、また異文化・異言語環境のなかでも**臆せず「英語で考えが発信できる」**ことを目指します。したがって英語母語話者崇拜意識を捨て、見かけの流暢さ重視を否定して、**国際共通語としての英語で意見を発信**できることを目指します。
- 1-4. **チーム医療に対応**し、国際世界の現場・職場で求められるチームつまり特異な知識や能力のメンバーとなり、その中でメンバーとして活躍できるようになるため、語学教育特に英語教育クラスは習熟度別クラス編成を廃止し、プレイスメントテストに基づく、上位から下位に至る様々な学力、能力の学生が**グループ**を編成し、**グループとして問題解決をめざし、その成果をプレゼンテーション**できる**アクティブラーニング型協同学習授業の実践**をします。習熟度別編成に付随する下位クラスの学習意欲の低下や成績評価の不均衡などの問題を改善した語学教育を行います。

英語科目一覧

科 目 名	配当 学年	単位 (*1)	開講	備 考	
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基 幹 科 目
英語演習 2	1	2	後		
英語演習 3	2	(*2)	前	日本人教員担当科目	
英語演習 4	2		後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後		
TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	発 展 科 目
TOEIC B	2-4	1	後		
TOEFL A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEFL B	2-4	1	後		
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
ライティング B	2-4	1	後		

(*1) : 2 単位科目は、同一教員が週 2 回担当する。1 単位科目は週 1 回の授業科目である。

(*2) : 医療薬学科は 1 単位、創薬科学科は 2 単位

英語科目

＜基幹科目： 科目名・概要＞

英語演習 1・2（一年前期・後期科目）

医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング（分速100語）・読解能力の定着をはかる。比較的読み易い医薬に関連した内容の文章を正確に理解し、その内容を日本語や英語で要約し、読み取った内容を論理的に整理して、他者に正確に伝えることができる医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習 3・4（二年前期・後期科目）

英語演習1・2で習得した英語力をさらに向上させ、英語を聞き取り、そこに含まれる情報の収集と、内容の他者への確実な伝達の手段としての英語力を、一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes, ESP）の入門的な英文なら、分速150語程度のスピードで読み、要点を整理・要約する能力を身につける。専門分野に関する英語情報を収集し、収集した情報をもとに、簡単な口頭発表の原稿が書け、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ 1・2（一年前期・後期科目）

英語母語話者の指導により、日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英語文献の多読訓練 extensive reading を行い、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を、英語を英語による授業を通じて行う。英語によるスピーチのための原稿作成などの準備を学び、行い、プレゼンテーションを経験する。

オーラルイングリッシュ 3・4（二年前期・後期科目）

英語母語話者の指導により、特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを、口頭で伝達し、自分の意見や感想を加えて発表でき、特定の、与えられたトピックについてのディスカッションを行う能力や、さらに高い会話力を身につける。スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、オーラルイングリッシュ1・2より高いプレゼンテーション能力を獲得し、英語のコミュニケーション能力の向上を図るべく、英語の授業を英語により行う。

英語科目

＜発展科目：科目名・概要＞

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

1クラスの受講者人数の基準を40名とし、受講希望者が40名を大きく超える場合は、教育効果を考慮し、担当教員または専任教員の指示により、何らかの方法で受講者数の調整とクラス編成を行う場合がある。

●TOEIC A・B

TOEIC 500点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。問題演習だけでなく、問題を聴解し読解するための英語の文法や発音に関する基本事項を復習する。

*学内の団体受験TOEICテストを受けることを奨励し、学内団体受験テスト、個人受験テストの結果は、担当者の判断で、加点対象とする。

●TOEFL A・B

TOEFL ITP（団体受験テスト）で460点以上取得するための演習を行う。TOEFLに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。またTOEFL iBT（インターネットテスト）の出題についての基本知識を学ぶ。TOEFLの問題演習だけでなく、北米の大学教育の事情やキャンパスの基礎知識を学ぶ。問題を聴解し読解するための英語の文法や発音に関する基本事項を復習する。

*学内の団体受験TOEFL ITPテストを受けることを奨励し、学内団体受験テスト、個人受験テストの結果は担当者の判断で、加点対象とする。

●ライティング A・B

日常生活で使う英語ライティングを基礎に、医薬系の研究や仕事をする上で必要な英文文書を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを、簡潔で正確な英語で表現する訓練を行う。また英文書の論理的構造を理解できることを目標とする。具体的には、主題文→トピックセンテンスと具体例→結論、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった医薬系英文を書くための基礎訓練をする。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEFL ITP スコア	
1	年	次	ネイティブの発音による医薬系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	医薬系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400 460 ·
2	年	次	ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	医薬計専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	医薬系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	医薬系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	460 500

発展科目：到達目標

● TOEIC A・B

TOEIC テストで 500 点以上の取得を目指す。TOEIC で出題される語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、英語長文の速読能力を身につける。

● TOEFL A・B

- ・ TOEFL 460 点 (PBT・ITP) 以上 (iBT は 80 点以上) を目指す。
- ・ コンピューターによるテスト (iBT) 形式に対応できる技能を身につける。
- ・ 大学・研究所などアカデミックな環境での会話内容が理解できる能力を身につける。
- ・ 主要文法項目を理解し、すばやく問題に対応できる能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別・科目別の特徴を理解し、速読・速解の能力を身につける。
- ・ 文法・読解問題で学んだ知識を、レポートなどアカデミックなライティングに応用できる能力を身につける。

● ライティング A・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて、複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。医薬系の英文、発表の英作文の基礎を養う。

発展科目履修のガイドライン

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC500 以上 TOEFL ITP460 以上
TOEFL A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC500 以上 TOEFL ITP460 以上
ライティング A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC500 以上 TOEFL ITP460 以上

<TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準>

*平成23年度以降の入学生には

TOEIC等の得点による単位認定は行わない。

<海外英語研修による単位認定>

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

TOEIC、TOEFL、ライティングのいずれか履修していない英語発展科目の
A・B（計2単位）として認定する。

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習2の成績によって、英語演習3(2年時)のクラス編成をおこないます。
- 3) **統一英語試験**は、成績評価(100点満点)の内**40%**分となります。残りの**60%**は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等をもとに成績評価し、100点満点として成績評価します。
- 4) 統一英語試験(定期試験)は、必ず受験しなければなりません。

		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習1	前期定期試験期間に実施→	クラス編成はおこなわない
	英語演習2	後期定期試験期間に実施→	英語演習3
2 年	英語演習3	前期定期試験期間に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習4	後期定期試験期間に実施	クラス編成はおこなわない

外国語科目

英 語

医療薬学科（平成 26 年度以前入学生）

英語履修案内

英語教育の共通基本目標

近畿大学薬学部（教養基礎教育部門）

語学教育の基礎理念

1. 薬学部の語学教育の基本的理念は、医療従事者や医薬系研究者に必要とされる外国語の能力に加え、**論理的思考や批判的思考を身に着けた国際的な教養力**をもつ人材の養成・輩出を目指します。
2. 近畿大学の建学の精神である、**実学教育**に加え、**人格の陶冶**を目指す**教養教育**を実現することを目指します。
3. **実学が薬学、医・薬学の専門教育**であるとすれば、その**教養基礎教育は「人格の陶冶」の部分を、医療人として求められる人間理解の探求と、それに基づいた、外国語のみならず母語にも求められるコミュニケーション能力や問題解決能力の養成**を目指します。

語学の方法と理念

学習負荷の高い医療系基礎専門並びに専門科目を学習する薬学部の初年次、2年次学生には、**医療系の専門の導入となる教材**を使い、医療人としての自覚を高めながら**専門教育の導入教育**を担い、無駄のない語学教育プログラムを実行します。

- 1-1. 自宅学習、事前準備学習を確実に実行するために、**e-learning**など**ITコンテンツ**を活用した**語学教育**を実践します。これは「**反転授業**」的方法でもあります。
- 1-2. 海外での発表・研修・在外研修の機会が特に多い医療系学部の学生(院生)に必要な**TOEFL教育**を、**語学(英語)教育の一つの軸**とします。
TOEFL (ITP, iBT test) についての知識を持ち、TOEFLスコアを取得し、またTOEFLを通じて、従来の**General English**教育ではなく、**Academic English**教育を行います。アカデミック教育が同時に国際教養教育になるように教育指導します。学生諸君は語学(英語)教育を受けながら、英語運用能力を磨き、教養力をつけると同時に大学在学中のスコア(資格)取得も目指します。
- 1-3. 医療系あるいは理系人材として必要とされる語学能力を考慮し、**4技能のうち Reading と Writing の能力の育成を最優先**とします。
Reading (読書量、読書力) は世界の大学教育の基本であり日本人大学生に欠ける部分であることから、「**正確に読む**」「**大量に読む**」を目標に、Reading能力育成が、英語で発信される最先端情報を早く正確に把握するための語学教育を目指します。あわせて**英語の多読教育**を推進し、また**図書館文献を活用した日本語文献の大量読書**も推奨します。
さらに世界に研究成果を発信し、異文化・異言語の人々と意見交換するための英語力の育成のために**Writing**が「**明瞭で正確**」にでき、また異文化・異言語環境のなかでも**臆せず「英語で考えが発信できる」**ことを目指します。したがって英語母語話者崇拜意識を捨て、見かけの流暢さ重視を否定して、**国際共通語としての英語で意見を発信**できることを目指します。
- 1-4. **チーム医療に対応し、国際世界の現場・職場で求められるチームつまり特異な知識や能力のメンバー**となり、その中でメンバーとして活躍できるようになるため、語学教育特に英語教育クラスは習熟度別クラス編成を廃止し、プレイスメントテストに基づく、上位から下位に至る**様々な学力、能力の学生がグループを編成し、グループとして問題解決をめざし、その成果をプレゼンテーションできるアクティブラーニング型協同学習授業の実践**をします。習熟度別編成に付随する下位クラスの学習意欲の低下や成績評価の不均衡などの問題を改善した語学教育を行います。

英語科目一覧

科目名	配当 学年	単位	開講	備考	
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基幹科目
英語演習 2	1	2	後		
英語演習 3	2	1	前	日本人教員担当科目	
英語演習 4	2	1	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後		
TOEIC 1	2-4	1	前	日本人教員担当科目	発展科目
TOEIC 2	2-4	1	後		
TOEIC 3	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEIC 4	2-4	1	後		
留学英語 A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
留学英語 B	2-4	1	後		
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
ライティング B	2-4	1	後		
イングリッシュカルチャーセミナー A	3-4	1	前	日本人教員担当科目	
イングリッシュカルチャーセミナー B	3-4	1	後		
イングリッシュスペシャルスタディーズ A	3-4	1	前	ネイティブ または日本人教員担当科目	
イングリッシュスペシャルスタディーズ B	3-4	1	後		
アドバンスト TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
アドバンスト TOEIC B	2-4	1	後		
TOEFL A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEFL B	2-4	1	後		
インターネットイングリッシュ A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
インターネットイングリッシュ B	2-4	1	後		
アドバンストオーラルイングリッシュ	3-4	1	前(2コマ) または 後(2コマ)	ネイティブ教員担当科目	

*2 単位科目は、同一教員が週 2 回担当する。1 単位科目は週 1 回の授業科目である。

*新カリキュラムへの移行につき、不開講となる科目がある。

英語科目

〈基幹科目： 科目名・概要〉

英語演習 1・2 (一年前期・後期科目)

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能(読む、書く、聞く、話す)の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習 3・4 (二年前期・後期科目)

英語演習 1・2 で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語 (English for Specific Purposes、ESP) の入門的な文章なら、分速 150 語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ 1・2 (一年前期・後期科目)

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能(許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など)を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事などを読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

オーラルイングリッシュ 3・4 (二年前期・後期科目)

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。

英語科目

＜発展科目：科目名・概要＞

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

*クラス編成ほか、以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

TOEIC 1・2

TOEIC 420点以上を目安に、TOEIC 520点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

TOEIC 3・4

TOEIC 500点以上取得している学生を対象に、TOEIC 600点以上取得するための演習を行う。比較的長いナレーションを正確に聞き取るリスニング能力の養成を図る。

留学英語 A・B

留学を考慮・想定して、TOEFL対策の演習を中心に、英語圏の大学、大学院生活に必要な英語力の養成を目指す。ナチュラルスピードで話される講義を聞き取れ、レポートを英語で作成できることを目指す。

ライティング A・B

日常生活で使う文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書の英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかっただ理科系英文を書くための基礎訓練をする。

イングリッシュカルチャーセミナー A・B

ゼミ形式で英語圏の文化に対する理解を深めながら英語を学ぶ。英語圏の国々の言語、文化、社会などの話題について読み、自分の意見をレポートにまとめ、発表し、ディスカッションすることにより、課題解決能力と高度な英語力を養成する。

イングリッシュスペシャルスタディーズ A・B

異文化にかかわる話題を聞き、読んで、ディスカッションやディベートに参加し、異文化間に潜む問題の要因や、異文化理解をさまたげるさまざまな要因について学ぶ。また、専門分野に関する記事を読んだり聞いたりして、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを行う。

アドバンスト TOEIC A・B

すでに TOEIC550 点以上を取得している学生を対象に、TOEIC 700 点以上取得を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらにビジネスシーンに必要な会話表現を習得し、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。また TOEIC に頻出の主要文法項目、語彙・表現を用いて、Eメールやビジネスレター、注文書、広告、グラフなど読解に頻出のジャンルの特徴を学び、それらの書き方も学ぶ。

TOEFL A・B

外国の大学の学部・大学院への留学を希望し、TOEIC550 点以上または TOEFL487 点(PBT)を取得している学生を対象に、TOEFL 550 点(PBT)以上を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらに外国での学生生活に必要な会話表現を学び、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。TOEFL に頻出の重要文法項目を習得し、アカデミックライティングの訓練も行う。また説明文や講義に用いられる語彙・表現の特徴を習得し、速読・速解ができるように訓練する。

インターネットイングリッシュ A・B

TOEIC550 点以上を取得していることを目安に、インターネットを活用するために必要とされる英語能力の向上を図る。情報収集や発信の方法を学び、速読・速解を行い、インターネットを活用した問題解決能力を育成する。英文のホームページの作成や調べたことのプレゼンテーションに取り組む場合もある。

アドバンストオーラルイングリッシュ (前期2コマまたは後期2コマ 週2回)

TOEIC550 点以上を取得していることを目安に、高度で説得力のある英語を話せる能力の育成を目標とする。交渉・議論・プレゼンテーションなどをより効果的に行うための理論と方法を学び、視覚資料の作成法や提示法について実践的な訓練を行う。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEIC スコア	
1	年	次	ネイティブの発音による理系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400 470 .
2	年	次	ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	450 520

発展科目：到達目標

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

● TOEIC 1・2

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

● TOEIC 3・4

TOEIC テストで600点以上の取得を目指す。TOEIC1・2 で目標とした能力の一層の向上を図るとともに、ナレーションを正確に聞き取る能力、オフィスで使用される文書の速読能力を身につける。

● 留学英語A・B

英語圏での日常生活や学生生活に必要な会話力を身につける。英語圏の大学で学ぶ際に必要となる知識を吸収し、TOFEL (PBT) 460点、TOEFL (CBT) 140点以上取得の英語力を身につける。

● ライティングA・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

● イングリッシュカルチャーセミナーA・B

英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的話題について概要、要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報を整理し、自分なりにまとめる能力や、自分の意見を発表したりする能力を身につける。

● イングリッシュスペシャルスタディーズA・B

異文化の話題に関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加し、口頭発表能力を身につける。また、専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その内容についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う能力を身につける。

発展科目：到達目標

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

● アドバンスト TOEIC A・B

- ・ TOEIC 700 点以上を目指す。
- ・ リスニングでは、会話、説明文対策に力点をおいて学習し、内容理解のための語彙力を増強し、問題文の速読・本文の内容把握能力を身につける。
- ・ TOEIC 頻出の主要文法項目を理解し、短時間で穴埋め部分の品詞や、間違い部分を発見する能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別の文章の特徴を学び、文章中の必要な情報をすばやく把握する能力を身につける。

● TOEFL A・B

- ・ TOEFL 550 点 (PBT) 以上を目指す。
- ・ コンピューターによるテスト形式に対応できる技能を身につける。
- ・ 日常生活における会話、また大学構内や教室内でかわされる会話内容が理解できる能力を身につける。
- ・ 主要文法項目を理解し、すばやく問題に対応できる能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別・科目別の特徴を理解し、速読・速解の能力を身につける。
- ・ 文法・読解問題で学んだ知識をレポートなどアカデミックなライティングに応用できる能力を身につける

● インターネットイングリッシュ A・B

- ・ コンピューターを用いた情報収集の方法（検索機能の効果的な利用方法など）を習得する。
- ・ メール、申し込み、注文などの書き方を身につける。
- ・ 英文のホームページの作成方法を身につける。

● アドバンストオーラルイングリッシュ

- ・ 交渉、議論、さらにプレゼンテーションの効果的な進め方を身につける。
- ・ パワーポイントなどの視覚資料の作成ができるようにする。
- ・ 説得力のある話し方、身振り、自然な発音やイントネーションを身につける。

発展科目履修のガイドライン （平成19年度以前の入学生に適用）

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

* 履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC 1・2	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC 420 点 TOEFL 443 (PBT) / 127 点 (CBT)
TOEIC 3・4	TOEIC 1・2 の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2 の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。	TOEIC 500 点 TOEFL 470 点 (PBT) / 150 点 (CBT)
イングリッシュ カルチャー セミナー A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、英語演習 3・4 も取得済みの者。	TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 140 点 (CBT)
イングリッシュ スペシャル スタディーズ A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、オーラルイングリッシュ 3・4 も取得済みの者。	TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 140 点 (CBT)
留学英語 A・B ライティング A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	
アドバンスト TOEIC A・B	履修条件 なし	TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み
TOEFL A・B	履修条件 なし	TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み
インターネット イングリッシュ A・B	履修条件 なし	TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み
アドバンストオーラル イングリッシュ	履修条件 なし	TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み

発展科目履修のガイドライン

〈平成20年度以降の入学生に適用〉

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

* 履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC 1・2	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC 420 点 TOEFL 443 (PBT) / 43 点 (iBT)
TOEIC 3・4	TOEIC 1・2 の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2 の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。	TOEIC 500 点 TOEFL 470 点 (PBT) / 52 点 (iBT)
イングリッシュ カルチャー セミナー A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、英語演習 3・4 も取得済みの者。	TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 48 点 (iBT)
イングリッシュ スペシャル スタディーズ A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、オーラルイングリッシュ 3・4 も取得済みの者。	TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 48 点 (iBT)
留学英語 A・B ライティング A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	
アドバンスト TOEIC A・B	TOEIC 550 点以上取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み
TOEFL A・B	TOEIC 550 点以上取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み
インターネット イングリッシュ A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み
アドバンストオーラル イングリッシュ	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み

<TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準>

<平成19年度以前の入学生に適用>

TOEIC 等の得点

TOEIC 得点	TOEFL CBT 得点 (カッコ内は PBT)	単位認定される科目	備考
500-595	150 (470) -179 (508)	英語演習 3・4 TOEIC 1・2	計 4 単位
600 以上	180 (510) 以上	英語演習 3・4 TOEIC 1・2 TOEIC 3・4	計 6 単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。

*1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ、薬学部事務部に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)

*2 同一科目の重複認定は行わない。

*3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

<海外英語研修による単位認定>

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 A・B (計 2 単位)

<TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準>

<平成20年～22年度の入学生に適用>

TOEIC 等の得点

TOEIC 得点	TOEFL iBT 得点 (カッコ内は PBT)	単位認定される科目	備考
550-645	57 (488) -68 (520)	TOEIC 3・4	計2単位
650 以上	69 (523) 以上	TOEIC 3・4 アドバンスト TOEIC 1・2	計4単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。

*1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ薬学部事務部に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)

*2 同一科目の重複認定は行わない。

*3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

***平成23年度以降の入学生には**

TOEIC等の得点による単位認定は行わない。

<海外英語研修による単位認定>

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 A・B (計2単位)

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習2の成績によって、英語演習3(2年時)のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価(100点満点)の内40%分となります。残りの60%は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験(定期試験)は、必ず受験しなければなりません。

		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習1	前期定期試験期間中に実施→	クラス編成はおこなわない
	英語演習2	後期定期試験期間中に実施→	英語演習3
2 年	英語演習3	前期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習4	後期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない

外国語科目

英語

創薬科学科 (平成26年度以前入学生)

英語履修案内

英語教育の共通基本目標

近畿大学薬学部（教養基礎教育部門）

語学教育の基礎理念

1. 薬学部の語学教育の基本的理念は、医療従事者や医薬系研究者に必要とされる外国語の能力に加え、**論理的思考や批判的思考を身につけた国際的な教養力**をもつ人材の養成・輩出を目指します。
2. 近畿大学の建学の精神である、**実学教育**に加え、**人格の陶冶**を目指す**教養教育**を実現することを目指します。
3. **実学が薬学、医・薬学の専門教育**であるとすれば、その**教養基礎教育は「人格の陶冶」**の部分を、**医療人として求められる人間理解の探求と、それに基づいた、外国語のみならず母語にも求められるコミュニケーション能力や問題解決能力の養成**を目指します。

語学の方法と理念

学習負荷の高い医療系基礎専門並びに専門科目を学習する薬学部の初年次、2年次学生には、**医療系の専門の導入となる教材**を使い、**医療人としての自覚を高めながら専門教育の導入教育**を担い、無駄のない語学教育プログラムを実行します。

- 1-1. 自宅学習、事前準備学習を確実に実行するために、**e-learning**など**ITコンテンツ**を活用した**語学教育**を実践します。これは「**反転授業**」的方法でもあります。
- 1-2. 海外での発表・研修・在外研修の機会が特に多い医療系学部の学生(院生)に必要な**TOEFL教育**を、**語学(英語)教育の一つの軸**とします。
TOEFL (ITP, iBT test) についての知識を持ち、TOEFLスコアを取得し、またTOEFLを通じて、従来の**General English**教育ではなく、**Academic English**教育を行います。アカデミック教育が同時に**国際教養教育**になるように教育指導します。学生諸君は語学(英語)教育を受けながら、英語運用能力を磨き、教養力をつけると同時に大学在学中のスコア(資格)取得も目指します。
- 1-3. 医療系あるいは理系人材として必要とされる語学能力を考慮し、**4技能のうち Reading と Writing の能力の育成を最優先**とします。
Reading (読書量、読書力)は世界の大学教育の基本であり日本人大学生に欠ける部分であることから、「**正確に読む**」「**大量に読む**」を目標に、**Reading**能力育成が、英語で発信される最先端情報を早く正確に把握するための語学教育を目指します。あわせて**英語の多読教育**を推進し、また**図書館文献を活用した日本語文献の大量読書**も推奨します。
さらに世界に研究成果を発信し、異文化・異言語の人々と意見交換するための英語力の育成のために**Writing**が「**明瞭で正確**」にでき、また異文化・異言語環境のなかでも**臆せず「英語で考えが発信できる」**ことを目指します。したがって英語母語話者崇拜意識を捨て、見かけの流暢さ重視を否定して、**国際共通語としての英語で意見を発信**できることを目指します。
- 1-4. **チーム医療に対応し、国際世界の現場・職場で求められるチームつまり特異な知識や能力のメンバー**となり、その中でメンバーとして活躍できるようになるため、語学教育特に英語教育クラスは習熟度別クラス編成を廃止し、**プレイスメントテスト**に基づく、上位から下位に至る**様々な学力、能力の学生がグループを編成し、グループとして問題解決をめざし、その成果をプレゼンテーションできるアクティブラーニング型協同学習授業の実践**をします。習熟度別編成に付随する下位クラスの学習意欲の低下や成績評価の不均衡などの問題を改善した語学教育を行います。

英語科目一覧

科 目 名	配当 学年	単 位	開 講	備 考	
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基 幹 科 目
英語演習 2	1	2	後		
英語演習 3	2	2	前	日本人教員担当科目	
英語演習 4	2	2	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後		
TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	発 展 科 目
TOEIC B	2-4	1	後		
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
ライティング B	2-4	1	後		

特例：特に優れた語学力を持っている学生（例えば帰国子女、TOEICスコア600点以上取得者等）は、1年次から発展科目を履修できるものとします。特例は個別に対処します。

*英語演習 1, 2, 3, 4 の 2 単位科目は、原則として同一教員週 2 回担当科目、その他の 1 単位科目は週 1 回の科目です。

英語科目

＜基幹科目： 科目名・概要＞

英語演習1・2（一年前期・後期科目）

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習3・4（二年前期・後期科目）

英語演習1・2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達的手段としての英語力をより一層確実なものとすることを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速150語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ1・2（一年前期・後期科目）

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事を読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

オーラルイングリッシュ3・4（二年前期・後期科目）

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。

英語科目

＜発展科目：科目名・概要＞

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

TOEIC A・B

TOEIC 420 点以上を目安に、TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

ライティング A・B

日常生活で使う簡単な文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書までの英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論を明示、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった理科系英文を書くための基礎訓練をする。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEIC スコア	
1	年	次	ネイティブの発音による理系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400 470 ·
2	年	次	ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	450 520

発展科目：到達目標

● TOEIC A・B

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

● ライティング A・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

発展科目履修のガイドライン

〈平成24年度以降の創薬科学科入学生に適用〉

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC A・B	英語演習1・2 + オーラルイングリッシュ1・2 を取得済みの者。	TOEIC420点 TOEFL443 (PBT) / 43点(iBT)
ライティング A・B	英語演習1・2 + オーラルイングリッシュ1・2 を取得済みの者。	TOEIC420点 TOEFL443 (PBT) / 43点(iBT)

<TOEIC 等の得点による在学生の単位認定は行わない>

<海外英語研修による単位認定>

国際交流センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

TOEIC A・B または ライティング A・B

のいずれか、未修得の発展科目の単位として認定する。

(計 2 単位)

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習2の成績によって、英語演習3(2年時)のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価(100点満点)の内**40%**分となります。残りの**60%**は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験(定期試験)は必ず受験しなければなりません。

		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習1	前期定期試験期間に実施→	クラス編成はおこなわない
	英語演習2	後期定期試験期間に実施→	英語演習3
2 年	英語演習3	前期定期試験期間に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習4	後期定期試験期間に実施	クラス編成はおこなわない